

平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

新地町立駒ヶ嶺小学校 https://kyoiku.shinchi-town.jp/?page_id=17
 新地町立福田小学校 https://kyoiku.shinchi-town.jp/?page_id=19
 新地町立新地小学校 https://kyoiku.shinchi-town.jp/?page_id=16
 新地町立尚英中学校 https://kyoiku.shinchi-town.jp/?page_id=20

都道府県名	福島県
学校名	新地町内4小中学校
教育委員会のホームページ	https://kyoiku.shinchi-town.jp/?page_id=18

1 取組テーマ

震災後の学校における食育の課題（地域の食材の活用等）解決に向けた取組

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年及び人数	平成26年	1人
配置されていない場合の対応状況	栄養教諭は駒ヶ嶺小学校に配置されている。配置されていない3校では、養護教諭と連携し、身体測定の結果を考慮し給食の献立作成を行っている。また、定期的に栄養教諭が出向き、食に関するアンケートを実施して授業や給食指導を行っている。	

3 推進委員会の構成

- 委員長 新地町教育委員会教育長 1名
- 新地町教育委員会前教育長 1名（事業コーディネーター）
- 県教育委員会指導主事 1名 ○ 相双教育事務所担当指導主事 1名
- 新地町公民館長 1名（調理師免許有（専門は和食）・食育専門家）
- 新地町教育委員会指導主事 1名 ○ 実践校校長 4名（町内小中学校長）
- 実践校栄養教諭 1名（駒ヶ嶺小学校） ○ 町内主任栄養技師 1名（給食部会担当）
- 実践校養護教諭（地域学校保健委員会担当）、食育推進コーディネーターより 4名
- 新地町PTA連合会会長 1名（保護者代表）
- J A そうま新地総合支店長 1名（生産者代表）
- 相馬双葉漁業協同組合新地支所長 1名（生産者代表）
- 東京大学医科学研究所員・教授（医師） 2名 ○ 郡山女子大学准教授（調理学） 1名
- 日本原子力研究開発機構産学連携担当者 1名 ○ 新地町食環境改善推進委員代表 1名
- 根っこの会代表（体験学習） 1名 ○ 新地町健康福祉課（栄養士免許有） 1名

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
東京大学医科学研究所	講座スタッフ派遣、栄養・健康指導、健康調査・分析アドバイス
郡山女子大学	評価、栄養・健康指導、アドバイス
日本原子力研究開発機構	講座スタッフ派遣、体験学習、食材の放射線量測定アドバイス
J A そうま新地総合支店	体験学習、食材の放射線量測定、食材指導
相馬双葉漁業協同組合新地支所	体験学習、食材の放射線量測定、食材指導
根っこの会（新地町食育実践サークル）	体験学習、耕作指導、食育講座
新地町食環境改善推進委員	体験学習、食育講座
地域学校保健委員会	健康指導、健康調査、評価・分析

5 実践内容

事業目標

- 1 震災後、食事の内容やとり方が変化し、また肥満傾向にある生徒が増えたことから、栄養教諭が中心となり、バランスのよい食事など食べる力を育てる。
- 2 地元の季節の食材などを用いることにより、地元が続いている食文化を維持させ、郷土愛と感謝の心の育成を体験的な学習を通して推進する。
- 3 家庭料理の良さを栄養面や伝統文化、地元の産業などと関連づけて、体験的な学習を通して身に付けさせる。また、学校給食を生きた教材として、「学校給食レシピ集」を活用し、食育の推進を学校教育全体で進める。

評価指標

- 子ども達の健康関連データの改善
(病欠率、適正体重児童生徒の増加、給食残菜率等の変容等)
- 町の健康関連データの向上
(新地町地域学校保健委員会調査結果、新地町保健センター”健康しんち21”諸調査等)
- 地場産物活用状況のデータの向上(地場産物の給食食材の活用状況に関する増加率調査等)
- ホールボディカウンターによる健康調査のデータの向上(東京大学医科学研究所データ解析)
- 学校・教育委員会ウェブページ閲覧数の変容(子ども達による地域食材や食文化の国内外へのPR活動による情報発信・アクセス数)
- 食に関する体験活動を大人(保護者)と子どもが一緒になって17文字で表現する「17字のふれあい」(福島県教育委員会事業)への応募数の変容
- 「学校給食レシピ集活用」による子どもたちや保護者の意識の変容(アンケートによる)

評価方法

- 事業開始前の調査・測定の実施(6月)と事後調査・測定の実施(12月)の結果による比較
- 食育アンケート
 - 地場産物活用状況調査
 - 各種健康調査
 - 作品出品数等

評価指標を向上させるための仮説(道筋) (詳細は、新地町食育グランドデザイン参照)

目標 食べる力の育成 健康増進・食文化理解 地域の食材活用

- 適正体重の児童 85% 生徒 87%
- 地場産物消費の機会喪失・減少(給食では8%)
- 食に関する知識獲得や食文化理解の機会低下
- 食や放射線に関する科学リテラシーの欠如

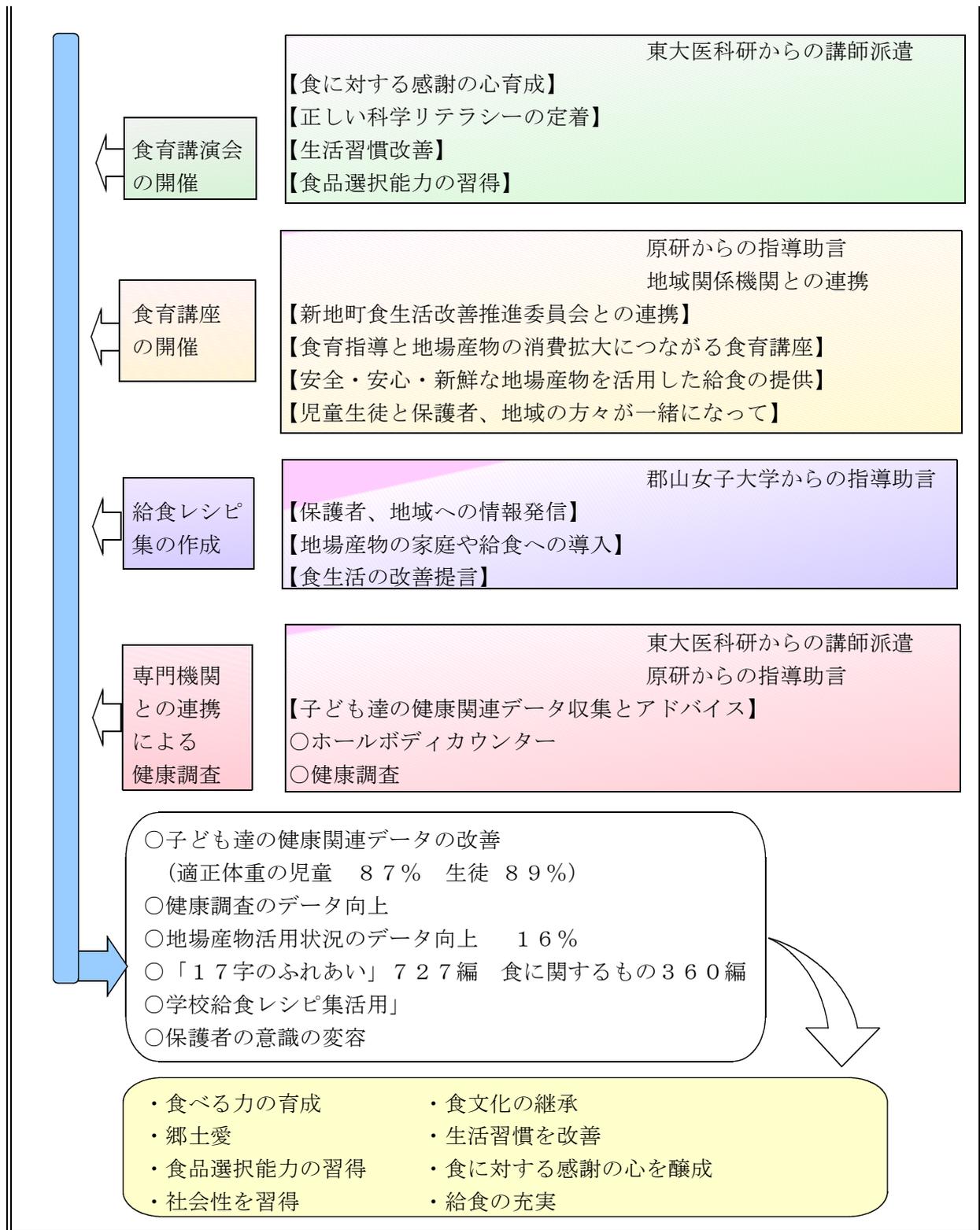
栄養教諭
による
食育指導

郡山女子大学からの指導助言
栄養教諭による食育指導(新地町内小中学校4校)
栄養教諭による情報収集(アンケート)と情報発信(食育だより)
栄養教諭、指導主事による地場産物活用に関する説明会

- 地場産物活用に関する調査
- 食育だよりでの公表・意見募集
- 食育講座での地場産物活用に伴う放射線量検査と説明
(食育だより、ウェブページ)
- 地場産米活用に関する調査

適切な評価
項目作成と
評価

東大医科研からの指導助言
郡山女子大学からの指導助言
食育部会(栄養教諭、養護教諭、食育コーディネーター)
による情報収集と分析
地域学校保健委員会による健康調査の分析



実践内容

- 具体的な取組 (※年度内に食育部会・レシピ集作成委員会を8回開催)
- 食と生活に関するアンケート実施 (5月23日回収) 平成26年 5月 7日
- 第1回スーパー食育スクール推進委員会 6月13日
- ▽駒ヶ嶺小学校学校菜園工事 6月20日
- スーパー食育スクール事業における地場産物活用の説明会 6月21日
- ◎食育講座Ⅰ・食育講演会Ⅰ「禅宗精進料理調理講習と「食事への感謝」講演 7月 3日
- 講師 福島市 常円寺住職 阿部 光裕 様
- 会場 新地町立新地小学校調理室・体育館 **【写真1】**
- 備考 昼食は、同じメニューの給食を保護者と一緒に食す。

町内全校で同一メニュー給食実施

食育講座では新地町食生活改善推進員10名の連携協力

食材の放射線量測定現場を保護者が見学

93名参加【6年児童37名+保護者34名・地域の方々・関係者22名】

講演会198名参加【児童120名+保護者70名+関係者8名】

◎食育講演会Ⅱ「健康未来の食育講座」 7月 3日

講師 日本食育協会 認定食育講師 上級食育指導士 井上真由美 様

会場 新地町立駒ヶ嶺小学校体育館

備考 265名参加【児童159名+保護者83名・教職員・関係者23名】

◎食育講演会Ⅲ「食と放射線との付き合い方」【写真2】 7月 4日

講師 医療法人相馬中央病院 放射線対策室室長 加藤茂明 様

(前東京大学分子細胞生物学研究所エピゲノム疾患研究センター長)

会場 新地町立尚英中学校体育館

備考 414名参加【生徒239名+保護者143名+地域・関係者32名】

□「新地町の食材を使った ～わが家のおすすめ料理～」募集 7月18日

▽駒ヶ嶺小学校学校菜園そば蒔き【写真3】 9月 5日

●給食への地場産物（新地町産米）活用検討委員会 9月 5日

▽町内全児童生徒ホールボディカウンター実施 9月上旬

◎食育講演会Ⅳ「安全で美味しいりんご」【写真4】 9月10日

講師 新地町バンビリんご七印園 島 米七 氏

会場 新地町立福田小学校体育館

備考 67名参加【6年生児童16名+保護者・地域の方々39名】

○食育講座Ⅱ「植物から取れる糖と味・手軽にできる和菓子」【写真5】 9月18日

講師 相馬市手作り教室「キッチンママ」主宰 富田 かおり 氏

会場 新地町立駒ヶ嶺小学校

備考 本講座では新地町食生活改善推進員の7名の連携協力

新地町立福田小学校とテレビ会議システムで結び、同時開催

74名参加【4年生児童26名+福田小4年18名+保護者・教員30名】

○食育講座Ⅲ「地場産物として有名なトマトを活用したイタリアン料理」【写真6】 9月19日

講師 新地町「さくらや」オーナー 櫻井 和文 氏 並木 信爾 氏

会場 新地町立駒ヶ嶺小学校

備考 本講座では新地町食生活改善推進員7名の連携協力

47名参加【5年生児童25名+保護者・地域・教職員22名】

○食育講座Ⅴ「新地町産食材の加工品を味わおう」 10月 8日

いちじくタルト、いちじくの加工品、ニラ餃子

講師 JAそうま婦人部「味菜クラブ」代表 林 なみ子 氏

会場 新地町立福田小学校

備考 34名参加【5年生児童15名+保護者・地域・教職員19名】

本講座では新地町食生活改善推進員の5名の連携協力

○食育講座Ⅵ「美味しい餅をつくには 薪から始める餅つき」【写真7】 10月25日

講師 並木伸爾氏・羽根田万通氏

会場 新地町立駒ヶ嶺小学校

備考 508名参加【全校児童158名+保護者・地域・教職員350名】

本講座では新地町食生活改善推進員の8名の連携協力

◎食育講演会Ⅴ「健康になるための食事と放射線の正しい知識獲得」 11月 8日

講師 神戸学院大学 磯部 久美 氏

会場 新地町立駒ヶ嶺小学校

備考 31名参加【保護者・地域の方々 31名】

▽我が家のおすすめ料理コンテスト表彰 11月 9日

○食育講座Ⅶ「ダシとは何か」	11月25日～28日
講師 新地町公民館長 武者 俊一 氏	
会場 新地町立尚英中学校	
備考 95名参加 【中学校生徒89名+関係者・教職員6名】	
○食育講座Ⅷ「新地まるごと給食」【写真8】	11月27日
講師 新地小学校児童・保護者（我が家のおすすめ料理 最優秀賞）	
会場 新地小学校からテレビ会議システムにて各学校へ配信（給食時）	
期日 平成26年11月27日（月）	
◎食育講演会Ⅵ「私たちの健康を支える「食事」と福島の食材使用	11月27日
講師 東京大学医科学研究所 坪倉 正治様	
会場 新地町立新地小学校	
備考 61名参加【6年生児童37名+保護者・地域の方々24名】	
○食育講座Ⅳ「学校菜園でつくったそばを活用してのそば打ち教室」【写真9】	11月28日(期日変更)
講師 根っこの会 代表 齋藤 一 氏	
会場 駒ヶ嶺小学校	
備考 47名参加 【6年生児童28名+保護者・地域・教職員19名】	
本講座で、根っこの会・新地町食生活改善推進委員会7名の連携協力	
◎食育講演会Ⅶ「食とスポーツ、適正体重維持とその管理方法」	11月28日
講師 福島県出身のオリンピック選手（ケイリン）新田 祐大氏	
会場 新地町立駒ヶ嶺小学校体育館	
備考 75名参加 【5, 6年生児童53名+保護者・地域の方々22名】	
◎食育講演会Ⅷ「和食は素晴らしい」	12月18日
講師 東京農業大学名誉教授 小泉 武夫氏	
会場 新地町立駒ヶ嶺小学校	
備考 93名参加 【5, 6年生児童54名+保護者・地域の方々39名】	
●第2回スーパー食育スクール推進委員会	12月 4日
●第3回スーパー食育スクール推進委員会	平成27年 2月 3日
□給食レシピ集配布（全児童生徒配布）	2月27日
□食育パンフレット配布（新地町内全戸配布）	2月27日
□報告書完成	2月27日

6 成果

		事業前	事業目標	事業終了後
1	ホールボディカウンター ・甲状腺等検査結果（受診率）	未受診26名 （未受診者が多い）	未受診0名	未受診5名
	ホールボディカウンター ・甲状腺等検査結果（結果内容）	Cs134, 137は検出 されない	Cs134, 137は 検出されず	Cs134, 137は 検出されず
2	肥満傾向児童の出現率	15.1%	13%	14.8%
	肥満傾向生徒の出現率	14.5%(H25)	11%	12.3%
3	生活習慣病予防検診結果（児童） 【管理区分別・所見別】の推移 （要管理区分児童出現率／脂質異常値児童出現率）		30% / 30%	32.6% / 41.9%
	生活習慣病予防検診結果（生徒） 【管理区分別・所見別】の推移 （要管理区分生徒出現率／脂質異常値生徒出現率）		20% / 20%	18.3% / 17.2%
4	給食での地場産物活用率	8.0%	16%	終了時 34.9% 年平均 21.7%
5	給食での地場産物活用品目数 （地場産物活用品目数）	野菜類0品目 水産物0品目	野菜10品目	野菜類15品目 水産物2品目

6	保護者の地場産物活用賛成率 (給食全体での賛成率)	71.5%	80.0%	93.1%
7	家庭における保護者の地場産物 活用率(各家庭での活用率)	67.0%	75.0%	78.0%
8	朝食摂取率(摂取率)	99%	100%	99%
9	朝食に野菜を食した児童生徒 の割合(摂取率)	70.1%	75%	66.3%
10	夕食に汁物を食した児童生徒 の割合(摂取率)	60.6%	70%	78.8%
11	17字のふれあい (作品出品数)	717編(H25)	360編 (食に関連)	1311編 (食に関連)
12	「我が家のおすすめ料理」コンテスト(出品数)		36編 (児童生徒の5%)	33編
13	ウェブページ閲覧数(閲覧数)	8101/年 (駒ヶ嶺小学校) 13006/年 (新地町教委)	10000/年 (駒ヶ嶺小学校) 15000/年 (新地町教委)	26302/年 (駒ヶ嶺小学校) 9154/年 (新地町教委)

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

新地町教育委員会のウェブページに食育要項・各種アンケート結果・食育だよりの公表
各新聞社によるスーパー食育スクール事業に関する掲載記事
食育しんち(毎月1回発行カラー版で全児童生徒配布)
食育パンフレット(4000部・町内全戸配布)給食レシピ集(1000部・全児童生徒配布)

8 今後の課題

肥満傾向児の出現率

- 新地町内小中学校の肥満傾向割合(事業開始前)
 - 平成26年度学校保健統計調査速報(事業開始前の4月調査をまとめたもの1月に公表)
発育状態調査結果の概要(福島県)
 - (1) 身長及び座高 男女ともほぼ全国並み
 - (2) 体重 男子17歳を除き各年齢で全国平均を上回った。
 - (3) むし歯の被患率 幼稚園から高等学校まで全国の割合を上回った。
 - (4) 肥満傾向児の出現率 全ての年齢で全国の割合を上回っている。
- ※ 福島県統計課編 平成26年度学校保健統計調査速報から抜粋・編集

※※		男子				女子			
学年	年齢	全国	福島県	※	新地町男子	全国	福島県	※	新地町女子
小1	6歳	4.34	8.62	①	21 ●●	4.15	7.07		20 ●
小2	7歳 ①	5.45	9.00		13 ●	5.41	10.29		8
小3	8歳	7.57	10.86		10	6.24	10.42		11 ●
小4	9歳 ①	8.89	17.34		15	7.36	12.68	①	13
小5	10歳	9.72	14.85		13	8.40	9.39		30 ●●
小6	11歳 ①	10.28	15.12		16 ●	8.56	13.71		24 ●●
中1	12歳	10.72	15.76		15	7.97	13.12	①	15 ●
中2	13歳	8.94	15.02	①	14	7.89	13.78	①	3 ◎
中3	14歳	8.16	9.83		15 ●●	7.68	10.32		5 ◎

※と※※の①は、都道府県別順位が1位であることを表している。

● 県を上回る ●● 大幅に県を上回る。 ◎ 全国を下回る

福島県は、前頁の表値が示すとおり複数の学年で肥満傾向児の出現率が全国で一番高い結果が出ている。その中でも新地町の子どもたちの肥満傾向児の出現率は、複数の学年で県平均を大幅に超えるなど、学校のみならず保護者や地域が一体となって改善を図らなければならない極めて厳しい状況である。

この肥満傾向児の出現率の高さは、主として以下の原因によるものと考えられる。

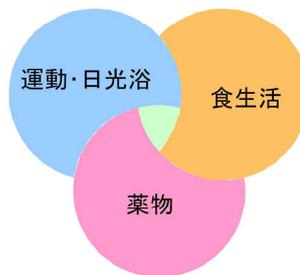
- ① 震災以降、仮設住宅入居、区域外就学(2月現在、それぞれ児童生徒の1割在籍)に伴う生活の激変
- ② 徒歩による登下校の減少や回避(通学路に津波浸水地域を含む理由等)
- ③ 校庭の除染工事や震災直後の野外活動自粛による運動量の減少
- ④ 地場産物活用敬遠(農産物の風評被害あるいは漁業等の操業禁止)による食卓から和食や伝統料理離れが顕在化、代わって揚げ物総菜の食卓占有率の増大 など

【写真1】 精進料理実習



【写真2】 講演会資料より

骨粗鬆症の予防と治療の原則



【写真3】 そば蒔き



【写真4】 「安全なりんご」 講演



【写真5】 手軽にできる和菓子



【写真6】 地場産イタリアン



【写真7】 薪からはじめる餅つき



【写真8】 新地まるごと給食



【写真9】 そば打ち教室



